

第57回国際捕鯨委員会（IWC）年次会合総会の結果について

平成17年6月24日
水産庁

20日から24日まで韓国（ウルサン）において開催された第57回IWC年次会合総会の結果概要は以下のとおり。

1．参加国：加盟66カ国のうち59カ国（うち9カ国が新規加盟国）

2．出席者：

森本IWC日本政府代表、中前明水産庁次長、末永芳美水産庁資源管理部審議官、岩藤俊幸外務省経済局漁業室長ほか約80名が出席。

また、代表団メンバーとして、加治屋義人農林水産大臣政務官、玉澤徳一郎衆議院議員、小野寺五典衆議院議員、鈴木俊一衆議院議員、竹山裕参議院議員、浜田靖一衆議院議員、林芳正参議院議員、鶴保庸介参議院議員、谷本龍哉衆議院議員、近藤基彦衆議院議員、永岡洋治衆議院議員、金子恭之衆議院議員、山際大志郎衆議院議員、小平忠正衆議院議員、岸本健衆議院議員、和田ひろ子参議院議員、神風英男衆議院議員が参加。

3．会議全体の流れ

今年年次会合では加盟国数が66カ国となり、実質的に持続的利用支持国が反捕鯨国を上回る状況となった。しかし、分担金支払問題等により不参加の国があったため、投票の結果は、ほとんどの議題でわずかの差で過半数に及ばなかった。

他方、2日目の議事運営に関する豪州の強硬な要求が賛成20票、反対28票、棄権9票で否決されたのを機に持続的利用支持国の勢いが増し、その後は持続的利用支持国が多くの場面で議論の主導権をとるとともに、穏健な反捕鯨国を中心に対話の空気が拡大した。

4．主要案件結果概要

(1) 鯨類捕獲調査

本年秋から実施する第2期南極海鯨類捕獲調査の計画案を説明したが、豪等の反捕鯨国から同調査計画案の撤回を求める決議案（法的拘束力はない）が提案され、投票の結果、賛成30票、反対27票、棄権1票で採択された（前回投票（ベルリン）：賛成24票、反対20票、棄権1票）。これを受け我が国より、科学的な根拠のない政治的な決議は受け入れることはできず、調査を予定通り実施する旨表明した。

(2) 改訂管理制度（RMS）の早期完成

昨年の決議に基づき行われたRMS作業部会の結果を受けて議論を行ったが、一部の反捕鯨国が、RMSの完成はモラトリアム撤廃を意味しない等の従来の議論を繰り返したため、RMS採

択に向けた進展が得られなかった。そのため我が国は、関係国と協議の上、現実的な項目からなるRMS条約附表修正提案を行ったが、賛成23票、反対29票、棄権5票で否決された。なお、RMSに関する今後の議論の方法についての決議が、投票により採択された。

(3) 鯨類サンクチュアリー の撤廃

我が国等から、南氷洋サンクチュアリー の撤廃を求める提案を行ったが、賛成25票、反対30票、棄権2票で附表修正に必要な4分の3の得票が得られず否決された(前回:賛成19票、反対30票、棄権2票)。一方、反捕鯨国側による新たな南大西洋サンクチュアリー の設置を求める提案も、賛成29票、反対26票、棄権2票で同様に否決された(前回:賛成26票、反対22票、棄権4票)。

(4) 沿岸小型捕鯨の捕獲枠の設定

我が国沿岸小型捕鯨地域のためのミンククジラの商業捕鯨捕獲枠を要求したが、賛成26票、反対29票、棄権3票で否決された(前回:賛成24票、反対28票、棄権1票)。

(5) 保護委員会

保護委員会については、鯨類の持続的利用の概念を目的に盛り込む等の見直しが行われなかったため、我が国は、昨年に引き続き、多くの持続的利用支持国とともに欠席した。

(6) 無記名投票の拡大

全ての議決に無記名投票を導入すべきとの我が国の提案が、投票の結果、賛成27票、反対30票で否決された(前回:賛成24票、反対29票)。

(7) 次回以降の年次会合

2006年の第58回年次会合は、5月26日から6月20日まで、セントキッツ・ネービスで開催される。なお、2007年の年次会合は米国のアンカレッジで開催される。

| |
|--|
| (連絡先) 水産庁遠洋課 捕鯨班 諸貫 代表電話: 03 - 3502 - 8111 内線7242 直通電話: 03 - 3502 - 2443 |
|--|